

建築学分野

【学士力の考察】（修正が無いため省略）

【到達目標 1】（到達度②の下線部分を修正）

【到達度】

② 建築の機能性・安全性・芸術性に関する基本的な知識が活用できる。

【到達目標 2】（到達目標、解説、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正）

2. 建築の環境・計画・構造・生産に関する基本的な専門知識が理解できる。

ここでは、社会の量的・質的に複雑化するニーズに対応するために、建築の素材から多様な空間の構築に至る専門知識を理解させ、安全・快適な空間の創造と持続可能性に配慮できねばならない。そのため、環境・計画・構造・生産の到達目標に則した基礎知識を確実に修得させ、実践面での適確な判断力・応用力に結び付けられることを目指す。

【コア・カリキュラムのイメージ】

建築計画、建築環境工学、建築設備、建築構法、建築構造力学、建築材料、建築施工、建築生産、建築経済、建築に関する実験・演習・実習など

【到達目標 2】（修正が無いため省略）

【到達目標 3】（解説、コア・カリキュラムのイメージ、到達度①の下線部分を修正）

ここでは、建築学に関する専門知識を踏まえて関連する法令の根拠や技術者倫理を理解させねばならない。そのため、地球環境や生活環境の安全・安心・快適性及び公共福祉に配慮し、まちづくり・地域・都市計画に関連付けて建築のマネジメントを考察できることを目指す。

【コア・カリキュラムのイメージ】

都市計画、地域計画、建築法規、建築倫理、建築企画、ファシリティ・マネジメントなど

【到達度】

① 地球環境や生活環境の安全・安心、快適性に配慮する知識が活用できる。

【到達目標 4】（到達目標、解説の下線部分を修正）

4. 建築学の体系的な知識や技能をもとに、環境・計画・構造・生産などの各分野・系と協働して建築作品にまとめることができる。

ここでは、複雑化する社会、多種多様な価値、変容する自然環境などに対応するため、分野・系を超えた連携に基づく協働設計の在り方を身につけさせねばならない。